

細野環境大臣現場視察

～広域処理実現に向けての働きかけ強化を約束～



ガレキの放射線量測定を実施



仮置き場視察後の記者会見

1月28日、細野豪志環境大臣、亀山紘石巻市長らが現場を訪れ、二次仮置場内のがれきの集積状況の視察と、がれきの放射線量測定を大臣自らが行って石巻ブロックの瓦礫が安全であることを確認しました。視察後の記者会見においては、「がれき処理が被災地にとってどれだけ深刻な問題であるか国民の理解が足りない。全国的にもう一度認識してもらう必要がある。」とコメントし、がれきの広域処理(県外処理)について、他自治体への働きかけを強化することを約束していただきました。広域処理が実現すれば、それだけ早くがれきの処理が進むこととなります。

はたらく機械シリーズ ①



自走式破砕機 (通称: ガラバゴ)
コンクリートや岩などを砕く機械です。クローラによる自走式なのでどこでも行けます。現場には計8台が導入され、1月末までに約13万㎡のコンクリートガラを破砕しました。

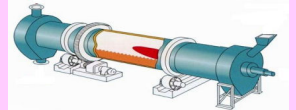
焼却炉の建設に着手

(焼却能力1,500 t/日は国内最大級)

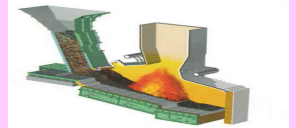
環境アセスメント結果の縦覧終了・着工許可を受け、当初の予定通り2月1日から焼却炉(ロータリーキルン×2基、ストーカー炉×3基、計5基)の建設に着手しました。5月中旬に先行して1基を稼働させ、7月末には5基すべてが完成する予定です。最大300t/日×5基=1,500t/日の焼却が可能で国内最大級の焼却施設を設置する計画ですが、この焼却施設をもってしても本業務期間内に処理可能な数量は約70万t(可燃物全体の約1/3)であり、このことから今回のがれき数量がとてつもなく膨大であることがわかります。



焼却炉の組立状況



ロータリーキルン炉のイメージ図



ストーカー炉のイメージ図



雲雀野北埠頭に水切り(荷下ろし)されたロータリーキルン炉の部品

「おらほのラジオ体操～」

当現場では、震災後の石巻地域のコミュニティ復活のために作られた「おらほのラジオ体操」で朝礼時のラジオ体操を行なっています。地元出身のタレント・ラジオパーソナリティーの本間秋彦さんによる石巻弁での掛け声に合わせての体操が、JV職員・作業員を含めた現場全体の連帯感をアップに一役買っています。



「暴力団排除・災害防止協議会」設立総会を開催

1月26日「石巻ブロックJV暴力団排除・災害防止協議会」の設立総会がJV事務所の大会議室にて開催されました。当事業における暴力団排除・労働災害防止・交通安全対策を推進するために、宮城県が設置・運営を行なう「災害廃棄物処理推進連絡協議会」の下部組織として立ち上げたもので、JV職員、関係協力会社等から約100名が出席しました。石巻ブロックJVの佐々木所長より宮城県警察本部暴力団対策課の佐藤勲課長、石巻警察署の後藤孝義署長、河北警察署の太友智署長の3名に「参与」の委嘱状の交付を行なった他、宮城県警察暴力団対策課の白松貴美男課長補佐による暴排講話が行なわれました。(NHK、河北新報社等が取材に訪れ、当日夕方のニュース、翌日の新聞に掲載されました。) 今後、毎月開催される本協議会において、暴力団に関する情報をJVと宮城県警とで共有して対策を講じることで、当事業から暴力団等を徹底排除する方針を確認しました。

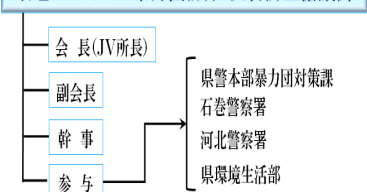


参加者は約100名



JV佐々木所長から委嘱状の交付

石巻ブロックJV暴力団排除・災害防止協議会



暴排・災防協の組織図

—2月の予定—

- 2/2 日建連広報誌取材
- 2/3 日経コンストラクション取材
- 2/3 フランス国営放送 (FRANCE24) 取材
- 2/4 三井産業研究所 社会部会 現場見学
- 2/9 鹿島東北支店安全パトロール
- 2/9 河北新報社取材
- 2/12 公明党議員団視察
- 2/16 JV運営委員会
- 2/23 暴排・災害防止協議会
- 2/24 建協・日建連現場視察
- 2/29 国連 環境ミッション現場視察

- ①出身地 ②主な職歴
- ③趣味・特技 ④抱負

- ①石巻市
- ②拠点庶務労務:1年 拠点経理:2年 現場事務:3年
- ③育児(子)とたちの未来のためにも元氣な石巻を取り戻しましょう!
- ④地元の皆様には喜ばれる仕事を全力でがんばるべし!



事務担当 阿部 猛士

JV職員紹介

- ④阪神・淡路大震災の経験を生かし、全身全霊でガレキ処理に当たります!



副所長 射場 亨